

保育現場における子どもの歌の 選曲基準に関する一考察 —子どもの声域に着目して—

A Consideration on the Selection of Music Standard of
Children's Songs at Children's Facilities.
—Focusing on the Range of Children's Voices—

穴澤彩佳
Sayaka ANAZAWA

I. はじめに

保育の現場における音楽は、子どもの成長や発達と共に発展させていかなければならないものである。子どもにとっての音楽とは、言葉や遊び、生活、運動と密接しており、音楽はその発達に伴い発展し高度になっていく。保育者は発達段階を踏まえて音楽を選択していかなくてはならず、それぞれの発達段階を無視し用いる音楽は、子どもにとって混乱の元であり負担にさえなり得る。そのようなことは子どもの音楽への意欲を削ぎ、あるところの発達の勢いを止めることになりはしないだろうか。幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容-表現-3内容の取扱い-(3)生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるよう工夫すること。とあるように、保育の現場においては、発達段階を踏まえながら子どもが楽しく自然に音楽を感じ、健やかに発達していけるように数多くある音楽の中から選曲、活用し、子どもの自己表現を伸ばしていくべきではないだろうか。

保育の現場では一日の活動の中の様々な場面で音楽が用いられるが、本稿では子ども自身が歌うという音楽活動に焦点を絞る。子どもが歌う時、その声域を無視した選曲をすると、声帯に無理に力を入れてしまい、叫んだような声や怒鳴り声のようになってしまうことがある。そのような声になっているにも関わらず、正しく歌えるようにと何度も何度も歌わせてしまうと、声がかすれてくるなどの弊害が起こると思われる。しかし現状においては、そのようなことを意識し選曲されることはほとんど無く、お遊戯会あるいは学習発表会などの機会に合わせて聴き映えのする曲やアニメソングなどの流行り歌を歌わせることが多く、そし

て通常それらの曲を原調のまま演奏しているが、それは大概子どもの声域に合っておらず問題点が多い。保育所保育指針解説第2章保育の内容-2 1歳以上3歳未満の保育に関わるねらい及び内容-(2)ねらい及び内容-オ 感性と表現に関する領域「表現」-(イ)内容-④歌を歌ったり、簡単な手遊びを楽しんだりする。の中で、子どもはわらべうたなどの耳になじみやすい音の響きやゆったりとした調べに安らぎを感じ、保育士等と楽しさを共有することで歌を通して心が通い合う喜びを感じ更に自分の思いを表現したい気持ちを持つようになっていく。とあり、また、同第2章保育の内容-3 3歳以上の保育に関するねらい及び内容-(2)ねらい及び内容-オ 感性と表現に関する領域「表現」-(イ)内容-⑥音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。の中には、子どもが思いのままに歌ったりしてその心地よさを十分に味わうことが、自分の気持ちを込めて表現する楽しさとなり、生活の中で音楽に親しむ態度を育てる。保育士等は音楽に親しみ楽しめるような環境を工夫することが大切であると明記されており、子どもが無理することなく自然に歌えて、楽しく、親しみを持てる選曲が必要だと考える。このようなことから子どものそれぞれの発達段階における声域に着目し、それを踏まえて用いるべき歌を考察する。

II. 子どもの声域

子どもの年齢ごとの声域についての先行研究を比較し、より無理なく歌える声域と音程を検討し、設定する。

その際に参考とした文献は以下のものである。

- ・乳・幼児の歌唱能力の発達に関する一考察 I ～声域調査の分析を通して～
武田道子・加藤明代 / 静岡大学教育学科研究報告(教科教育学篇)第35号 p.249
- ・幼児の歌唱指導に必要な指導者の技術に関する考察 —幼児が無理なく歌える声域について—
久保田和子 / 関東短期大学紀要第59集 pp.53-54
- ・幼児教育・保育者養成のための幼児の音楽教育 —音楽的表現の指導—
音楽教育研究会 編 / 音楽教育研究会 p.26譜例1、2
- ・幼稚園・保育園のための音楽教育法 —子どもの実態を重視した—
音楽行動研究会 編 / 西日本法規出版 p.35表9
- ・最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導
井口太 編著 / 朝日出版社 p.31図1

0歳児 0歳のうちは歌うことは難しく、先行研究も無いため、声域設定については省く。

1歳児 1歳児の声域についての先行研究は少ないが、森田百合子、山本金雄、山本敬、秋山衛の共同研究があり、1～2歳ごろの声域は $F^1 \sim A^1$ としているため、これを参考とする。

2歳児 表1 2歳児の声域に関する先行研究

声域	研究者
2歳児	
$D^1 \sim G^1$	ジャーシルド・ビンストック 1934年
$C^1 \sim G^1$	武田道子・加藤明代
$F^1 \sim A^1$	森田百合子・山本金雄・山本敬・秋山衛

表1から最高音は G^1 と考えていだろう。最低音については研究者により開きがあるがあるため D^1 から E^1 と幅を持たせる。声域は $D^1 \cdot E^1 \sim G^1$ と設定し、その中で2～3度の音程に収まる曲が望ましいだろう。

3歳児(年少) 表2から3歳になると声域が少し広がっているのがわかるが、無理なく歌える声域を設定したいため $D^1 \sim G^1$ とし、音程は3～4度とする。

表2 3歳児の声域に関する先行研究

声域	研究者
3歳児	
$C^1 \sim A^1$	ジャーシルド・ビンストック
$D^1 \sim A^1$	森田 他
$A \sim A^1$	切替一郎・沢島政行 1968
$Ais \sim Fis^1$	Harkey
$C^1 \sim G^1$	清水美代子
$D^1 \sim A^1$	武岡真知子
3歳～4歳児	
$C^1 \sim G^1$	武田・加藤

4 歳児(年中)

表3 4 歳児の声域に関する先行研究

声域	研究者
4 歳児	
H~G ¹	ジャーシルド・ビンストック
D ¹ ~A ¹	森田 他
B~C ²	切替・沢島
Ais~Gis ¹	吉富功修 1983
C ¹ ~G ¹	Fröshels
A~Fis ¹	Joyner
C ¹ ~H ¹	清水美代子
C ¹ ~G ¹	千葉大附幼
Dis ¹ ~Gis ¹	志村洋子 1982
D ¹ ~H ¹	武岡真知子
4 歳~5 歳児	
B・C ¹ ~G ¹	武田・加藤
H~Ais ¹	前山珠世

4 歳になると最高音も広がりを見せる。最高音はA¹もしくはそれより高い音としている研究もあるが、G¹やGis¹とする研究の方が多く、また、無理をせずに歌うという点からみてもG¹・Gis¹とするのが良いだろう。最低音についてはD¹との研究もあるがC¹としている研究が多くあるためC¹としたい。声域の設定はC¹~G¹・Gis¹とするが、まだあまり音程には幅を持たせぬよう3~5度とする。

5 歳児(年長)

成長とともに最低音が広がりを見せているのが表4からわかる。Aとしている研究も多いがC¹以上とする研究も見られるため、間のHを最低音とする。最高音はより高くなりC²・D²という研究が見られる一方で、Gis¹以下のものも少なくない。大多数とは言い難いもののA¹とする研究が一番多く、また、本稿では無理なく歌うことを前提としているため低めの先行研究の結果を採用し、A¹とする。5 歳児はH~A¹の声域とし、3~5・6度音程の選曲をする。

表4 5歳児の声域に関する先行研究

声域	研究者
5歳児	
A~D ²	ジャーシルド・ピNSTOCK
D ¹ ~A ¹	森田 他
A~C ²	切替・沢島
A~A ¹	吉富功修 1983
H~Fis ¹	Kirkpatrick
C ¹ ~Ais ¹	Flöshels
H~F ¹	Plumridge
C ¹ ~H ¹	清水美代子
H~H ¹	千葉大附幼
Cis ¹ ~A ¹	志村洋子 1982
C ¹ ~A ¹	武岡真知子
5~6歳児	
B・H~G ¹	武田・加藤

Ⅲ. 子どもが歌う歌

ここでは子どもの発達を踏まえ、前章で年齢ごとに検討した無理なく歌える声域と音程を基に選曲の実例を示す。

0歳児 この頃は体の発達とともに感覚の発達も著しい。聴覚は6ヶ月頃から大人とほぼ同じように聴こえているとされ、メロディーを1つ1つの音としてではなくひとまとまりとして捉えて聴いており、それを移調したとしても同一のものだと判断できることが明らかになっている。

声はというと新生児のうちに出す声はほぼA¹とされている。その後、2~3ヶ月頃で「アー」、「ウー」といった母音に近い声を出すようになり、4~6ヶ月では自分の声で高低をつけたり色々な声を出して遊ぶようになる。6ヶ月からは喃語も盛んになり、これと並行して歌っているような声も出てくる。これは歌うことの第一歩と考えられており音域はかなり広い。

しかし、この時期に一緒に歌うというのは難しいため、生活の中で自然に短いメロディーを口ずさみスキンシップを楽しむと良いだろう。保育所保育指針解説第2章保育の内容-1 乳児保育に関わるねらい及び内容-(2)ねらい及び内容-イ 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」-④保育士等による語りかけや歌いかけ、発声

や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。中でも、子どもは、保育士等の優しい語りかけやゆったりとした歌いかけに心地よさを感じる。とあるので、その日の天気について話しかけ【あしたてんきになーれ】譜例1や、譜例2【～ちゃんあそぼう】などの語りかけに節をつけて歌える曲を選曲すると良いだろう。これらのような語りかけに節をつけた2音歌や3音歌は積極的に取り入れ、今後も聴いたり歌うであらうわらべうたにつなげていきたい。

譜例1 あしたてんきになーれ



譜例2 ～ちゃんあそぼう



保育所保育指針解説第2章保育の内容-1 乳児保育に関わるねらい及び内容-(2)ねらい及び内容-ウ 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」-(イ)内容-⑤保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。の中では、子どもは、あやし遊びを通して、保育士等による表情豊かな関わりの中で、心地よい気持ちのやり取りを楽しむ。その心地よさを体全体で表すようになり、体や手足が動くことの喜びを体験する。体をよく動かすことは、子どもが人と関わり合うことや自分を表現することにも密接に関連している。と書かれているので、スキンシップを取りやすい曲も取り入れたい。譜例3【ちいさいまめころこ】は足の裏から見た指の先を小さな豆に見立てた歌で、スキンシップを取りながら楽しげに歌うと良い。歌詞に節をつけたようなやや長い3音歌であるが、同じオノマトベが繰り返されており聴き取りやすく親しみやすいだろう。また、足の指をつまみ刺激を与えながら歌うと神経機能を発達させる効果もある。

譜例3 ちいさいまめころころ

ちいさいまめころころ ちつとふくれてころころ
もちつとふくれてころころ こんなにふくれてころころ

1歳児 音楽に合わせ体で調子を取り歌うようになるが、旋律は調子はずれで音域は狭く限られている。運動リズムと音声リズムが一体となってくるので、言葉のリズムをよく感じることができるようになり、節を感じるようになる。保育所保育指針解説第2章保育の内容-2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容-(2)ねらい及び内容-オ 感性と表現に関する領域「表現」-(イ)内容-②音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。の中に、音楽やリズムに合わせて体を動かすという経験を通して、子どもは楽しい気持ちをこうした方法で表現することの喜びを味わう。また、保育者等や友達などの身近な他者と一緒に楽しむ中で、同じリズムで体を動かしているうちに自ずと心が共鳴し、一体感を味わう喜びも感じるようになる。とあり、これらを踏まえた選曲のポイントは、節を感じられるもの、簡単な手遊びがつけられるものと考えられる。

譜例4【なっとう】は歌うことの前段階として有効だろう。手遊びをつけることができると運動リズムと連動しさらに効果的である。

譜例4 なっとう

なっとう なっとう ねーばねば なっとう なっとう
ねーばねば おおつぶなっとう こつーぶなっとう
おかーめなっとう みとなっとう

また、2音歌は音程感覚の第一段階となるため選曲のポイントと考える。1歳児の音域設定を前章でF¹~A¹としたので譜例5【おせんべやけたかな】は音域や音程も無理なく歌え、手遊びをつけることもできるので良いだろう。譜例6【人工衛星とんだ】は

屋内での遊びはもちろん、屋外で遊んだ際の石投げやブランコ遊びなどでは掛け声的にも使用できるだろう。

譜例5 おせんべやけたかな



譜例6 人工衛星とんだ



【おせんべやけたかな】、【人工衛星とんだ】のどちらも節を感じられる上に遊びの中に取り入れやすいため最適だろう。

しかし1歳児の場合、なかなか歌わない子どももいる。そのような場合はこれらの曲であっても無理に歌わせることはせず、何度でも保育者が歌い聴かせるべきである。その時点では歌わずとも歌として子どもの記憶に残っており、ある時に急に歌い出すこともある。

2歳児 2歳頃になると歌を部分的に歌うようになり、特に自然発生的な歌をよく歌う。1歳の時と比べてリズムは明確になり、旋律は音程があいまいな場合でもそれとわかるまでに似せて歌うことができるようになる。保育所保育指針解説第2章保育の内容-2 1歳以上3歳未満の保育に関わるねらい及び内容-(2)ねらい及び内容-オ 感性と表現に関する領域「表現」-(イ)内容-④歌を歌ったり、簡単な手遊びを楽しんだりする。の中で、歌や手遊びに慣れ親しみ、興味をもつようになる中で、自然と歌や動作などを覚えて、絵本や散歩で見かけた風景や動物などが歌のイメージと重なっている時に、自らくちずさむこともある。と書かれており、これらのことから選曲のポイントとしては、リズムが一歳時より少し高度なものや歌詞の内容に親しみをもてるといった点が挙げられるだろう。

まずはよりリズムが高度となり大きな動きをつけて歌う【びよびよちゃん】譜例7を選曲した。保育者とのやり取りが繰り返される曲で、保育者が歌い動いている間に子どもは保育者の言葉のリズムと動きを覚えそれを再現するという、一歳時からみるとかな

り高度な曲である。保育者は言葉のリズムと動作をはっきりとわかりやすくしなければ
ならない。

譜例7 ぴよぴよちゃん

□ は保育者、■ は子どもが歌います。

2歳児の声域は前章にてD¹・E¹～G¹の間の2～3度としたので、譜例8【いちばんぼしみつけた】を選曲した。この曲はとて短く歌いやすい。星空を想像させて歌ったり、いちばんぼしの部分を変った歌詞に変えて場面に合ったものにしても良い。譜例9【おせんべやいて】は前出譜例5【おせんべやけたかな】と歌詞は似ているが、こちらの曲の方が旋律が長くなりリズムや手遊びも高度になっている。

譜例8 いちばんぼしみつけた

譜例9 おせんべやいて

3歳児(年少) 3歳児になると音程にはまだ曖昧さが目立つものの、一曲を通して歌える子どもも多くなる。強弱などの曲想の変化を感じ取ることはできてもそれを表現することはまだ難しい。何人かの友達と一緒に歌うことも少しずつできるようになるが、まだマイペースな歌い方が多く、集団で声を揃えて歌うことは困難である。

まだ自然発生的な歌をよく歌う時期ではあるが、歌って聴かせられた歌に似せた歌や自然発生的な歌の部分と自分の知っている部分とが自分の空想によって変形されて歌われる空想の歌も増えてくる。また、自分の知っている歌の断片を組み合わせることで新たに作りあげたりすることもある。このように聴いた歌に似せて歌ったり自分の中にある素材を使って新たに歌を歌うことができるようになるものの、音程は不正確であったり曖昧な場合が多いため、選曲の際には音域をあまり広げずに自然に歌えるもの、そして幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容-表現〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする〕-3 内容の取扱い(2)において、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。としていることから、生活と関わりのある歌詞が使われている曲を選曲するとより子どもの表現を引き出しやすくなるだろう。歌詞を置き換えて自由に作りかえることができる曲も取り入れていくと良い。声域と音程はD¹~G¹の中の3~4度としたので、前出の譜例9【おせんべやいて】を発展させ歌詞を変えた譜例10【おもちをやいて】は歌いやすいだろう。さらに歌詞を変え譜例11【ちょうだいな】とすることも可能である。これらはその園によって、または季節や行事に合わせて歌詞を変えて歌うことができる。その際にはその歌詞に合った動きをつけるとさらに良い。

譜例10 おもちをやいて

1 おもちをやいて ひっくりかえして やいて
2 おもちをやいて ひっくりかえして やいて

おしょうゆをつけて クチャクチャ クチャクチャ クチャクチャ クチャクチャ
きなこをつけて パクパク パクパク パクパク パクパク

譜例11 ちょうだいな

1. アイスクリーム ちょうだいな おさらばに いれて
2. ジュースを ちょうだいな コップに いれて

スプーンをつけて ペロペロ ペロペロ ペロペロ ペロ
ストローをつけて チューチュー チューチュー チューチュー チュー

譜例12【せっせっせっ】はこれまで選曲してきた歌よりも音程の幅が広く、4度の音程を使用した曲であるが、非常に短く歌いやすいため、幅の広い音程を歌い始めるには最適だろう。主に1番の後に他の手遊び歌につなげるものだが、譜例のように2番を歌って何度も繰り返し歌うのも良い。その際はみそラーメンの歌詞を他の食べ物にどんどん変えていくことで瞬時に言葉を選びリズムに乗せるという言葉遊びに発展する。

譜例12 せっせっせっ

1. せっ せっ せ の よい よい よい
 2. せっ せっ せ の み そ ら - めん

また、定番ではあるが、3歳になるとチョコキが出せるようになるため【これくらいのおべんとばこに】譜例13を取り入れたい。この曲には音程がついていないものの、リズムが今までの曲よりも高度になり、曲が長くなっている。それを友達とテンポを合わせながら歌い、想像力を働かせて手を動かさなければならない。全員で声を合わせて歌う第一歩になるだろう。

譜例13 これくらいのおべんとばこに

こ れ く ら い の お べ ん と ば こ に お に ぎ り お に ぎ り ち よ つ つ め て き
 ぎ み し ょ う が に こ ま し お ふ っ て に ん じ ん さ ん ご ぼ う さ ん
 あ な - の あ い た れ ん ご ん さ ん す じ - の と お っ た ふ き

4歳児(年中) 4歳になると歌える音域が広くなり、音程やリズムも正しいものに近づいてくる。1曲を正確に歌える子どもも多くなり集団で歌うことにも慣れてかわりばんこに歌って喜ぶ。自然発生的な歌や知っている歌の断片を組み合わせる歌うことが3歳の時よりもさらに増える。強弱に応じた歌い方もできるようになり、歌詞の中の登場人

物になったつもりで歌うことや、情景を想像して歌うことができるようになる。また、幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容-表現〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする〕-2 内容-(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして遊んだりする楽しさを味わう。とあり、選曲にあたっては、想像力を働かせて歌うもの、集団でも声を合わせて歌いやすいものを取り上げると良いだろう。

設定はC¹~G¹・Gis¹の3~5度としていたので、まず【いっぽんばし にほんばし】譜例14を選曲した。この曲は同じメロディーを何度も歌うだけなので覚えやすく、曲の長さが短いため、集団で歌う時には合わせやすい。また、最後の2小節部分の歌詞をいくらかでも変化させて歌うことができるので子どもと一緒に考えて歌詞を変えて歌うのも良い。

譜例14 いっぽんばし にほんばし 作詞/湯浅とんぼ 作曲/中川ひろたか



1. い	ぼん	ば	し	い	ぼん	ば	し	お	や	ま	に	な	ち	や	っ	た
2. に	ほん	ば	し	に	ほん	ば	し	め	が	ね	に	な	ち	や	っ	た
3. さ	ん	ぼ	ん	ば	し	さん	ぼ	ん	ば	し	く	ら	げ	に	な	ち
4. よ	ん	ぼ	ん	ば	し	よ	ん	ぼ	ん	ば	し	お	ひ	げ	に	な
5. ご	ぼ	ん	ば	し	ご	ぼ	ん	ば	し	こ	と	り	に	な	ち	や
																っ
																た

【さかながはねて】譜例15も前出譜例14【いっぽんばし にほんばし】と同様に同じメロディーを何度も歌うものなので歌いやすいが、1小節目は音が跳躍しているので保育者は子どもが聴き取りやすいよう大きな声で丁寧に歌うよう注意が必要である。また、魚になりきって歌うと楽しく体を動かしながら歌うことができる。「くつついたものはなにかな？」などと子どもに想像させ言葉にすること促し、一人の子どものアイデアを全員で共有して歌うのも良いだろう。

譜例15 さかながはねて 作詞・作曲/中川ひろたか



1.~3. さ	か	な	が	は	ね	て	ピョン	あ た ま に く つ つ い た ぼ う し お な か に く つ つ い た テ ベ ソ お む ね に く つ つ い た オ ッ パ イ

【カレーライスのうた】 譜例16は他の2曲よりも少し長いので集団で歌うことにある程度慣れた頃から用いると良い。この歌は、食べ物やカレーライスを作る工程等を想像し動きをつけながら歌うことができ、6小節目まではかけあいでも歌うこともできるので4歳児が歌うにはちょうど良い1曲である。

譜例16 カレーライスのうた 1・2番作詞／ともろぎゆきお 3番／不詳 作曲／峯陽

1. にんじん たまねぎ じゃがいも ぶたにく
 2. トマト カレールウ とけたら あじみて
 3. ムシャムシャ モグモグ おみずも ゴクゴク

なべで い た め て ぐ つ ぐ つ に ま し ょ う
 し お を い れ た ら は い で き あ が り
 そ し た ら ち か ら が も り も り わ い て き た

5歳児(年長) 年長児になると正しい調性で旋律を歌えるようになってくる。また音楽に合わせて手拍子や足踏み、スキップ、片足跳びができるようになるため、体をダイナミックに動かしながら歌うことも取り入れたい。そのほか、音程やリズムの正確さに加えて曲想に応じて変化をつけて歌うようになり、自分で表現を工夫することができるようになる。歌詞を創作して替え歌にしたり、歌の途中で合いの手を入れたりして楽しみ、自分が歌う歌を皆に聴かせてあげようという気持ちが出てきて、一人もしくは何人かで発表し合い、友達の歌を興味を持って聴くことができる。選曲に際しては設定の声域の範囲内で今までよりも音程の跳躍や高度なリズムのある曲を取り入れて良いだろう。また、長めの曲にダンスや、やや複雑な手遊びがつけられるものの他に、幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容-人間関係〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う〕-3 内容の取扱い-(2)集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付く、自信をもって行動できるようにすること。(3)幼児がお互いに関わりを深め、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうこと

ができるようにする。とあることから、共通の認識を持って歌える曲や相手とのやり取りがある曲を選曲したい。

譜例17 はたけのポルカ 作詞／峯陽 ポーランド民謡

The musical score is written in 2/4 time and consists of four systems. Each system includes a vocal line with lyrics and a piano accompaniment line. Chord symbols (C, G, F) are placed above the vocal line. The lyrics are in Japanese and include a list of names in the first system.

System 1:
 Chords: C, G, C
 Lyrics: 1. いちばんめの } はたけ - に { キヤベツ - を } うえたら
 2. にばんめの } こむぎ - を }
 3. さんばんめの } トマト - を }
 4. よんばんめの } だいこん }
 5. ごばんめ の }
 System 2:
 Chords: C, G, C
 Lyrics: と な リ の ひ つ じ - が ム シ ャ ム - シ ャ た べ た
 と な リ の こ ぶ た - が パ ク パ - ク た べ た
 と な リ の に わ と り が コ ッ コ コ コ た べ た
 と な リ の こ う し - が ク チ ャ ク - チ ャ た べ た
 み た こ と な い よ - な だ い こ - ん で き た
 System 3:
 Chords: F, C, G, G, C
 Lyrics: は た け - の ま わ り - で ポ ル カ - を お ど ろ う
 System 4:
 Chords: F, C, G, C
 Lyrics: ひ つ じ - を つ か ま え て } ポ ル カ - を } お ど ろ う
 こ ぶ た - を つ か ま え て }
 に わ と り を つ か ま え て }
 こ う し - を つ か ま え て }
 だ い こ - ん か こ ん - で }

(↑ここから前奏)

(伴奏アレンジ／河北邦子)

前章にて設定の声域と音程はH~A¹の3~5、6度までとしてあるので、まず【はたけのポルカ】譜例17を挙げる。この曲はこれまでの曲よりも長く、音域も広がって

るが、メロディーは音階になっており歌いやすい。数やものの名前を捉えやすく、歌えるようになった後に手遊びはもちろんのこと、サイドステップやスキップを取り入れたダンスをつけることも可能だ。歌詞に出てくる野菜や動物もイメージしやすく、楽しく歌えるだろう。

譜例18 竹やぶのなかから わらべうた

た け やぶの なか から お ぼ け が フ ワ フ ワ

お ぼ け の あ と か ら お ま わ り さ ん が エ ッ ヘ ン オ ッ ホ ン

お ま わ り さ ん の あ と か ら お そ ば や さ ん が ド ッ コ イ

ド ッ コ イ お そ ば や さ ん の あ と か ら お し ょ う さ ん が

ポ ク ポ ク お し ょ う さ ん の あ と か ら パ ラ リ コ

さ ん が パ ラ パ ラ い っ せ ん ひ る っ て ジ ャ ン ケ ン ポ ン

【竹やぶのなかから】 譜例18は、色々な人物が登場し、その人物の特徴的な動きを想像させる楽しいわらべうたである。また、歌詞は人物だけでなく動物に変えることもで

きる。曲は長いものの音程の幅は狭く、リズムや歌詞、動きに集中できる曲である。子どもが歌詞の登場人物の特徴をつかみ、表現を工夫して歌えるよう、歌う前に子どもと話しをして動作をある程度覚えてから歌うと良い。

【いっちょうめのドラねこ】 譜例19はリズムが特徴的な曲である。このような付点のリズムは子どもが歌う曲によく用いられている。このリズムを正確に弾むように歌えるようにし、3連符と付点のリズムとの違いをはっきりと出すようにする。また、6、14小節に出てくる5度の跳躍の音程にも注意して歌いたい。最後はそれぞれ猫の鳴き声を工夫すると良いだろう。この曲は一人の手遊びもできるが、二人組でも遊べるので、5歳児であれば歌えるようになった後は友達とゲームのようにして遊びながら歌うとより楽しいだろう。

譜例19 いっちょうめのドラねこ 作詞・作曲／阿部直美

いっ ちよめ の ドラねこ に ちよめ の クロねこ

さん ちよめ の ミケねこ よん ちよめ の トラねこ

ご ちよめ の ネズミ は おいか け ら れ て

あ わ て て に げ こ む あ な の な か ニャオー

IV. おわりに

本稿は子どもの声域を踏まえた上で、子どもが自然に無理のない発声で歌える歌を選曲するというかなり焦点を絞った範囲での考察であるため、実際の保育現場において使用される全ての音楽活動に適用するというのは到底無理な話であろう。また、考察の結果、本稿で設定した声域と音程の条件を満たす曲は圧倒的に少ないものであった。大体の歌は音程の幅は良くても設定声域外であり、そのような曲を使用する場合には当然移調が必要となる。移調をすぐにできる保育者がいる場合は可能であるが、そのような保育者が必ずしもいるとは限らないのが現状である。保育者が予め練習できるように移調譜を用意しているという幼稚園や保育所はごく稀であろう。このような現状においては、やはりわらべうたに選曲しやすい曲が多い。また、声域についての点からみても歌いやすい音域の曲が多く、その重要性を再認識させられた。

今日では、複雑なリズムや音程、幅広い音域を使った新しい曲が多数作曲され、テレビの子供番組で繰り返し放送されている。多くの保育の現場では、それらの曲をそのまま子ども達に繰り返し聴かせ、歌わせているのが現状と思われる。これらの曲を歌わせる前に、わらべうたを保育者が心を込めて歌い聴かせ、子どもが無理なく自然に歌うことができこそ、子どもの成長や発達に大きく寄与することとなるであろう。

また、保育の現場においては、子どもに歌わせる歌の他に、活動の切り替えの歌や鑑賞の歌、BGMとしての歌等がある。それらに使用する歌は、リズムや音程が非常に高度である場合が多く、はじめにも言及したが、そのような曲を子どもに一生懸命正しく歌わせようとすると怒鳴り声のようになってしまうことが多々ある。それではそれらの曲があらわす曲調、詩の意味、音楽性も皆無となり、何の表現もできなくなってしまう。もしも子どもがそのような曲を楽しく自発的に歌っているのであれば、敢えて止める必要はないが、全員で無理に声を合わせて正確に歌うことを教育、保育目標にするべきではないと考える。そもそもそのような曲を正確に歌うということは子どもにとって困難なことである。

保育者は子どもの発達段階を考慮した上で、流行り歌ばかりに注目せず、適曲適所ということ念頭に、子どもが歌う歌とその他の歌とは分けて考え選曲するべきである。

参考文献

- 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領
- 厚生労働省 (2018) 保育保育指針解説
- 音楽教育研究協会 編 (1999) 幼児教育・保育者養成のための幼児音楽教育—音楽的表現の指導—
— 音楽教育研究会 ISBN4-87136-710-x C3073
- 音楽行動研究会 編 (1999) 幼稚園・保育園のための音楽教育法—子どもの実態を重視した—
— 西日本法規出版(株) 発行 (株)星雲社 発売 ISBN4-7952-0343-1 C3073
- 寛三智子 (1977) 幼稚園保育園の音楽教育の理論と実際 子どもの発達と音楽 株式会社音楽之友社
- 井口 太 編 (2018) 最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導 株式会社朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9 C1073
- 下田和男・西村政一 編著 石井みさ・杉山雅美・関根剛二・田村彰利 共著 (1990) 幼児の音楽と表現 株式会社建帛社 ISBN4-7679-3073-1 C3073
- 角尾和子・角尾 稔 編 (1999) 表現 有限会社川島書店 ISBN4-7610-0683-8 C3036
- 小林洋子・倉持洋子・大森幹子・島地美子・梁島章子 共著 (1990) 完成と表現のための音楽 株式会社学術図書出版社
- 足立広美 (2013) 幼児〈子ども〉の歌に関する一考察 —幼児〈子ども〉の歌の音域をめぐって—
— 創価大学教育学論集 第64号
- 久保田和子 (2017) 幼児の歌唱指導に必要な指導者の技術に関する一考察 —幼児が無理なく歌える声域について— 関東短期大学紀要 第59集
- 武田道子・加藤明代 乳・幼児の歌唱能力の発達に関する一考察 I ～声域調査の分析を通して～ 静岡大学教育学部研究報告(教科教育学) 第35号
- 坂井康子・五味克久 (2003) 子どもの歌唱に関する研究について—幼児の「つくりうた」の分析に基づく提言— 神戸大学発達学部研究紀要 第10集2号
- 畠山かな 保育における歌唱教材の選択に関する一考察 —幼児が音楽の要素を感じ、歌うことを楽しむには— 愛知教育大学 平成26年度卒業研究
- 阿部直美 編 (2016) 保育で役立つ! 0～5歳児の手あそび・うたあそび 株式会社ナツメ社 ISBN978-4-8163-6009-1
- 河北邦子・坂本久美子 編 (2017) 幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123 株式会社ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07766-3
- 阿部直美 (2015) 0～5歳児の楽しくふれあう! わらべうたあそび120 株式会社ナツメ社 ISBN978-4-8163-5789-9